

第117期

中間報告書

平成24年4月1日～平成24年9月30日

昭和パックス株式会社

株主の皆様へ

平素は格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、平成24年9月30日をもって当社第117期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）の前半を終了いたしましたので、業績についてご報告申し上げます。
平成24年12月



代表取締役社長 河野弘征

事業の概況

当第2四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年9月30日）におけるわが国経済は、前年来東日本大震災からの復興需要とエコカー補助金等の政策効果で回復を続けてきましたが、海外経済の減速を受け、急速に停滞感を強めつつあります。鉱工業生産は輸出減少の影響が大きく4～6月期に4四半期ぶりに前期比減少となり、7～9月期も減少が確実です。実質GDPは、4～6月期は外需が成長率を押し下げたものの国内需要が堅調を維持したため4四半期連続のプラス成長となりましたが、7～9月期は、円高と欧州景気の後退、中国をはじめとするアジア経済減速の影響で輸出が減少し、これまで堅調だった個人消費が政策効果一巡で弱含みとなることから民間消費も6四半期ぶりに減少に転じることが予想され、マイナス成長となることが見込まれます。

今後の国内景気は、輸出減少の継続、これまで国内需要を押し上げてきた政策効果一巡に伴い復興需要も減衰していくことなどから、当面は厳しい情勢が続くと予想されます。

産業用包装資材の製造・販売を主要事業とする当社グループの当第2四半期連結累計期間の業績は、一般的に出荷数量が前年同期に比べて減少し、売上高は9,631百万円で前年同期比で265百万円の減少となりました。損益につきましては、売上の減少のほか、前年度に子会社で実行し

た設備投資に伴う減価償却費の増加などがあり、営業利益407百万円（前年同期比70百万円の減益）、経常利益454百万円（同89百万円の減益）となりました。また、有価証券評価損を特別損失で計上したため、四半期純利益は261百万円（同86百万円の減益）となりました。

セグメントの業績を示すと、次の通りであります。

○重包装袋

重包装袋セグメントの主力製品であるクラフト紙袋は、業界全体の当第2四半期連結累計期間出荷数量（ゴミ袋を除く）は、前年同期比△1.0%と減少しました。米麦用途、砂糖・甘味用途、製粉用途などは横ばいでしたが、化学薬品、合成樹脂用途は大きく減少しました。

化学薬品、合成樹脂用途のシェアが高い当社の売上数量は前年同期比△2.5%と業界よりも減少幅が大きくなりました。

子会社の売上数量は、九州紙工(株)は前年同期比3.3%増、山陰製袋工業(株)の当第2四半期連結累計期間（1～6月）は前年同期比で4.3%増でしたが、タイ昭和パックス(株)の当第2四半期連結累計期間（1～6月）は顧客の生産が前年の洪水の影響から回復しきれていないことから前年同期比で8.7%減少しました。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間売上高は6,145百万円で、前年同期に対し130百万円の減収となりました。

○フィルム製品

フィルム製品の業界全体の当第2四半期連結累計期間の出荷量は、前年同期比で産業用、農業用いずれも減少しました。主原材料であるポリエチレン樹脂の価格は、当第2四半期連結累計期間では、ナフサ価格の変動を受け一旦値上がりした後値下がりに転じましたが、再度値上がりの趨勢になっています。

当社の売上数量は、前年あった特需効果の剥落で、産業用、農業用ともに減少し、全体で前年同期比△7.4%でした。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間売上高は1,951百万円で、前年同期に対し123百万円の減収となりました。

○コンテナ

粒状内容物の大型輸送用ワンウェイ・フレコンは、当第2四半期連結累計期間の海外からの輸入量は震災後の特需があった前年同期を大きく下回り、全体の流通量も減少していると推測されます。

当社のワンウェイ・フレコン「エルコン」の売上数量は自社製品、輸入販売品とも減少し、全体では前年同期比△15.2%となりました。大型コンテナバッグ「バルコン」も前年同期比△2.8%と若干数量を減らしました。

当セグメントの当第2四半期連結累計期間売上高は797百万円で、前年同期に対し77百万円の減収となりました。

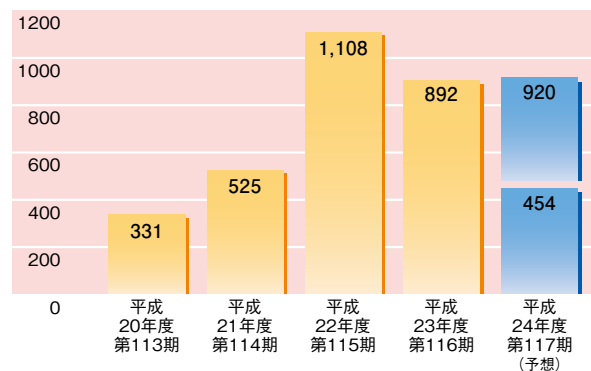
○不動産賃貸

賃貸用不動産と賃貸契約の内容に大きな変動はありませんでした。当セグメントの当第2四半期連結累計期間売上高は前年同期に対して1百万円減少し、122百万円となりました。

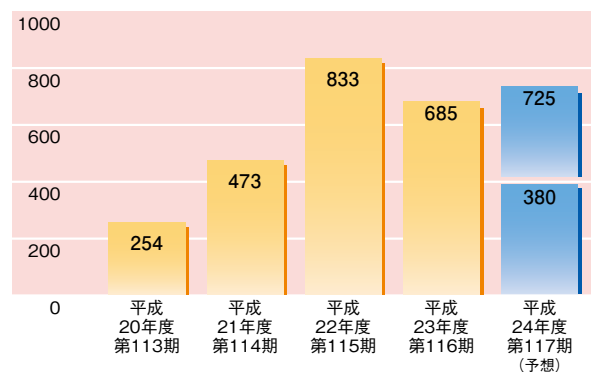
当第2四半期連結累計期間の当社グループの業績は、一般的な出荷数量の減少により、前年同期比で減収減益の結果となりました。第3～4四半期については、世界的に景気減速感が漂う中、我が国経済も厳しい情勢が続くことが予想されますが、当社グループは国内外の景気動向、原材料の市況動向を見据えながら、新しい商権の獲得と生産の一層の効率化に努め、売上と利益の拡大に注力してまいります。

経常利益 (単位：百万円)

連結



単体



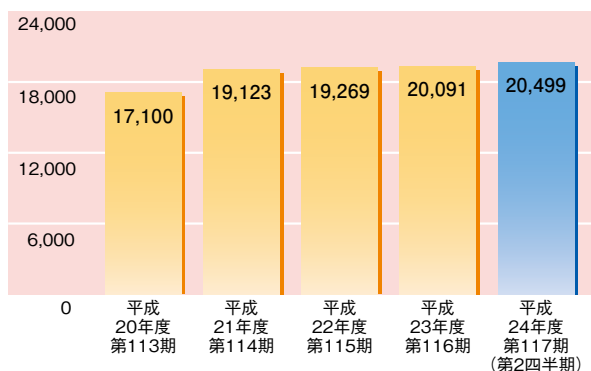
連結決算の概要

連結貸借対照表 (単位：千円)

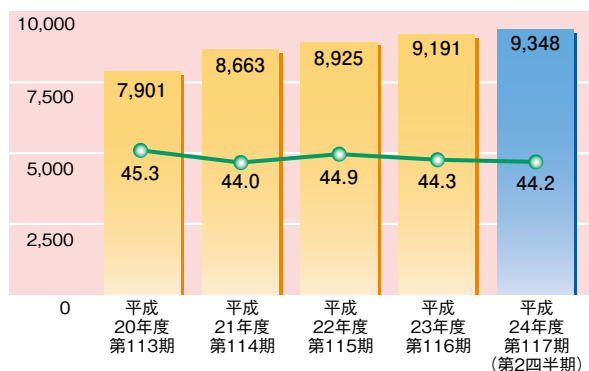
科 目	平成24年9月30日現在	平成23年9月30日現在
(資産の部)	(20,499,826)	(19,541,513)
流動資産	13,329,834	12,449,615
現金・預金	4,380,936	3,899,446
受取手形・売掛金	6,133,544	5,839,626
棚卸資産	2,328,882	2,253,096
その他	491,020	465,854
貸倒引当金	△ 4,549	△ 8,407
固定資産	7,169,991	7,091,897
有形固定資産	4,449,670	4,443,975
建物及び構築物	2,125,284	2,075,147
機械装置及び運搬具	1,248,370	1,126,512
その他	1,076,015	1,242,315
無形固定資産	39,081	52,530
投資等	2,681,239	2,595,391
投資有価証券	2,277,907	2,248,452
その他	463,719	413,390
貸倒引当金	△ 60,387	△ 66,451
合 計	20,499,826	19,541,513

科 目	平成24年9月30日現在	平成23年9月30日現在
(負債の部)	(11,151,287)	(10,500,720)
流動負債	9,247,684	8,691,635
支払手形・買掛金	4,921,895	4,178,768
短期借入金	2,948,720	2,983,360
その他	1,377,069	1,529,507
固定負債	1,903,602	1,809,084
長期借入金	799,000	778,000
その他	1,104,602	1,031,084
(純資産の部)	(9,348,538)	(9,040,792)
株主資本	8,908,807	8,617,902
資本金	640,500	640,500
資本剰余金	289,846	289,846
利益剰余金	7,985,963	7,694,337
自己株式	△ 7,502	△ 6,782
その他の包括利益累計額	156,059	136,118
評価差額金	283,670	224,754
為替換算調整勘定	△ 127,610	△ 88,636
少数株主持分	283,671	286,772
合 計	20,499,826	19,541,513

総資産 (単位：百万円)



純資産 (単位：百万円) 自己資本比率 (単位：%)



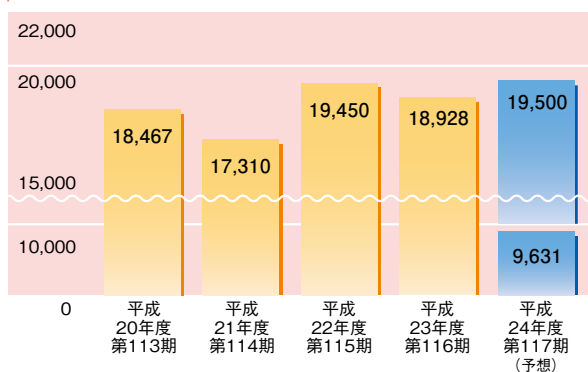
連結損益計算書 (単位：千円)

科 目	平成24年4月 1日から 平成24年9月30日まで	平成23年4月 1日から 平成23年9月30日まで
売 上 高	9,631,273	9,897,234
売 上 原 価	8,017,788	8,204,081
販売費・一般管理費	1,206,292	1,215,136
営 業 利 益	407,192	478,016
営 業 外 収 益	79,672	97,683
営 業 外 費 用	31,970	31,382
経 常 利 益	454,894	544,317
特 別 利 益	73	1,677
特 別 損 失	40,502	7,309
税金等調整前四半期純利益	414,465	538,684
法人税・住民税・事業税	148,034	181,804
法人税等調整額	1,167	△ 274
少数株主損益調整前 四 半 期 純 利 益	265,263	357,155
少 数 株 主 利 益	3,480	9,301
四 半 期 純 利 益	261,782	347,853

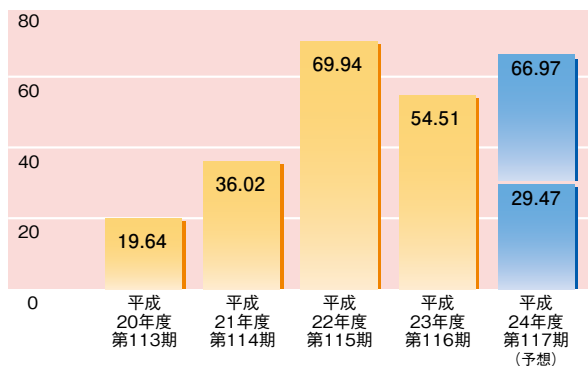
連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (単位：千円)

	平成24年4月 1日から 平成24年9月30日まで	平成23年4月 1日から 平成23年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	787,061	510,787
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 340,557	△ 381,155
財務活動によるキャッシュ・フロー	69,337	16,535
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,826	△ 9,350
現金及び現金同等物の増減額	518,667	136,816
現金及び現金同等物の期首残高	3,571,433	3,279,207
現金及び現金同等物の期末残高	4,090,101	3,416,024

売上高 (単位：百万円)



1株当たり当期純利益 (単位：円)



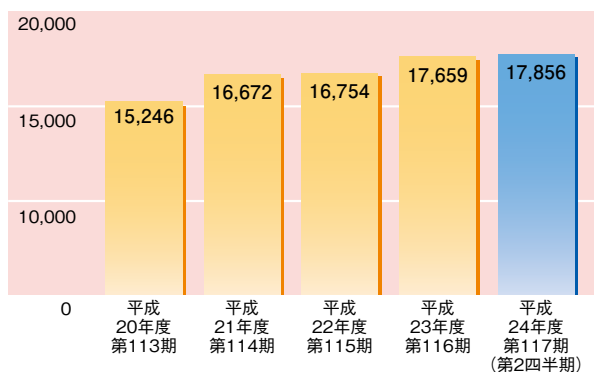
単独決算の概要

貸借対照表 (単位：千円)

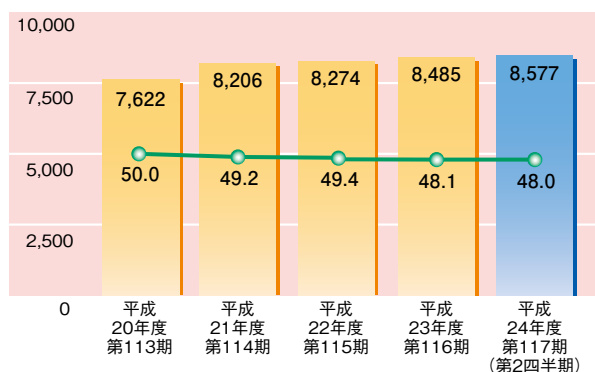
科 目	平成24年9月30日現在	平成23年9月30日現在
(資産の部)	(17,856,880)	(16,779,984)
流動資産	11,151,267	10,038,175
現金・預金	3,574,665	2,774,013
受取手形・売掛金	5,270,934	5,029,219
棚卸資産	1,838,715	1,792,517
その他	467,138	442,424
貸倒引当金	△ 187	0
固定資産	6,705,612	6,741,809
有形固定資産	2,994,433	3,115,650
建物	1,459,923	1,549,808
機械装置	846,923	871,757
その他	687,586	694,085
無形固定資産	25,453	34,489
投資等	3,685,725	3,591,668
投資有価証券	2,224,778	2,193,313
その他	1,473,428	1,415,303
貸倒引当金	△ 12,481	△ 16,948
合 計	17,856,880	16,779,984

科 目	平成24年9月30日現在	平成23年9月30日現在
(負債の部)	(9,278,935)	(8,478,661)
流動負債	7,803,178	7,134,780
支払手形・買掛金	4,481,564	3,761,194
短期借入金	2,085,000	2,085,000
その他	1,236,613	1,288,585
固定負債	1,475,757	1,343,880
長期借入金	600,000	600,000
退職給付引当金	137,790	81,445
役員退職慰労引当金	101,924	94,917
その他	636,042	567,517
(純資産の部)	(8,577,944)	(8,301,322)
株主資本	8,304,793	8,087,948
資本金	640,500	640,500
資本剰余金	289,846	289,846
資本準備金	289,846	289,846
利益剰余金	7,381,949	7,164,384
利益準備金	160,125	160,125
任意積立金	6,824,271	6,587,734
[配当平均積立金]	[426,564]	[426,564]
繰越利益剰余金	397,553	416,524
[当期純利益]	[210,226]	[238,610]
自己株式	△ 7,502	△ 6,782
評価・換算差額等	273,150	213,374
合 計	17,856,880	16,779,984

総資産 (単位：百万円)



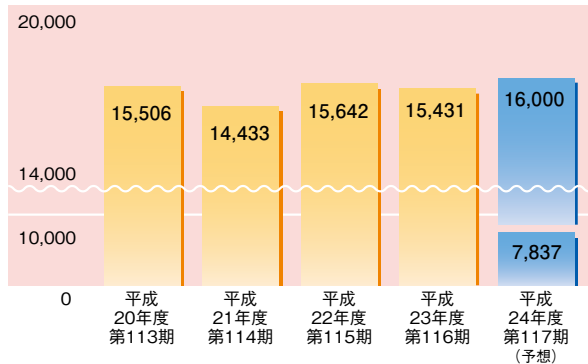
純資産 (単位：百万円) 自己資本比率 (単位：%)



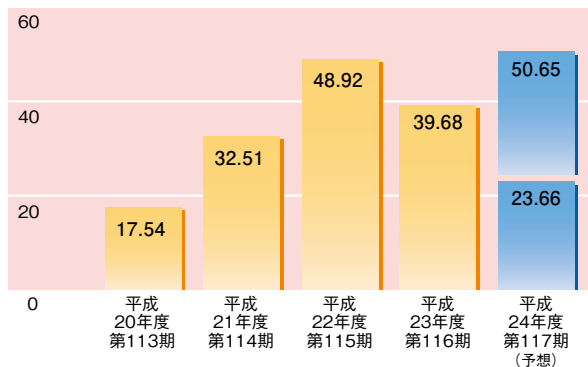
損益計算書 (単位：千円)

科 目	平成24年4月 1日から 平成24年9月30日まで	平成23年4月 1日から 平成23年9月30日まで
売 上 高	7,837,664	8,006,595
売 上 原 価	6,507,810	6,678,519
販売費・一般管理費	996,560	994,633
営業利益	333,292	333,441
営業外収益	70,129	69,370
営業外費用	22,996	16,604
経常利益	380,424	386,208
特別利益	—	—
特別損失	39,198	7,255
税引前四半期純利益	341,226	378,952
法人税・住民税・事業税	131,000	140,341
四半期純利益	210,226	238,610

売上高 (単位：百万円)



1株当たり当期純利益 (単位：円)



新規設備投資

当社は合成樹脂用の重包装紙袋を主力としていますが、取引先の生産設備の海外移転等により、国内の需要は減少傾向にあり、見通しは明るいものではありません。

将来の、売上の増加をはかるべく、平成25年上期中の完了を目指して下記2件の設備投資案件を決定いたしました。

1 防府工場へ中型袋生産設備導入

現在、当社では、中型袋は盛岡工場で生産しています。重包装紙袋の売上が頭打ちである一方で、中型袋の売上は増加しています。西日本での中型袋の需要にこたえ、売上を増加すべく、防府工場に、盛岡工場の設備を一部移設するとともに、中型袋の生産設備を新設します。

設備内容	クリーンルーム	1棟
	水性フレキソ印刷機	1台
	中型袋製袋機	3台

中型袋：容量30kg以上の重包装袋に対し、概ね10kg以下の小型袋。重包装袋の用途は主として原料等であるが、中型袋は玄米・精米・塩等に使用。

2 東京工場へ両底貼り袋、片底貼り袋生産設備導入

現在、当社で製造していない型式の、両底貼り袋、片底貼り袋の生産設備を導入し、あらゆる型体の袋に対応できる体制を整えます。そして、今後も一定の需要が見込まれる食品用途袋のシェアを増やす等、商機を逃すことなく、売り上げの増加をはかってまいります。

設備内容	新工場建屋	1棟
	底貼り機	2台

片底貼り袋：片底を船底型に形成した袋。口部はオープン袋。自立しやすく作業性が良い。

両底貼り袋：両底を船底型に形成した袋。多種のバルブ取付が可能で、粉体の包装に最適。積載効率が良く、漏れ防止機能も付加できる。

日経産業新聞に当社記事掲載

平成24年6月8日発行の日経産業新聞「新興企業NAVI」で、当社が紹介されました。

液体用物流資材本格出荷

エスキューブ

1,000L折り畳み容器用内袋「エスキューブ」は平成22年度に上市し、平成24年9月までに累計10,000袋を出荷しました。内容物の実績も食品分野では、醤油、ソース、酢、ドレッシング、たれ、食用油、工業分野では、ボディークリーナー、触媒など多岐にわたっています。数量も年々順調に増えており、今後も増加が見込まれます。年間10,000袋の生産・出荷を安定的に実現できる様に取り組みます。

エスタンク

20ftドライコンテナ対応の20,000L液体容器「エスタンク」は、平成20年度に上市し、ベースオイル、食用油、お酒、ラテックスなどの輸送に使用されました。この度、出荷実績・品質が評価され、大口需要家に採用されました。中国上海、ベトナムへの液体輸送用に使用されています。今後、年間800～1,000バッグ程度の出荷を見込んでおり、安定した品質の確立と数量実績を目指します。

■設立

昭和10年12月20日

■資本金

6億4,050万円

■主要な事業内容

クラフト紙袋、樹脂袋、合成樹脂製品の製造販売および各種包装容器、包装材料、包装関係機械の製造販売

■役員（取締役および監査役）（平成24年9月30日現在）

代表取締役社長	河野 弘 征	営業本部長
常務取締役	白方 茂 樹	管理本部長
取締役	花山 宜 久	営業本部副部長
取締役	土田 隆 夫	㈱昭和パックス(株) 代表取締役社長
取締役	大西 亮	㈱ネスコ 代表取締役社長
取締役	平野 正 春	生産本部長
常勤監査役	佐藤 隆	
監査役	藤岡 貞 章	㈱サンエー化研 取締役
監査役	佐々木 英一	新生紙バルブ商事㈱ 常勤監査役

※藤岡貞章氏および佐々木英一氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

事業所

本 社	〒162-0845 東京都新宿区市谷本村町2番12号 電話 03(3269)5111
支 店	大阪、西日本(山口)、中部(名古屋)、東北(仙台)
工 場	東京(埼玉)、防府(山口)、富山、亀山(三重)、 盛岡(岩手)、掛川(静岡)
子 会 社	九州紙工(鹿児島)、ネスコ(東京)、山陰製袋工業 (島根)、山陰パック(島根)、昭友商事(東京)、 タイ昭和パックス(タイ王国)

株主メモ

事 業 年 度	4月1日～翌年3月31日
定 時 株 主 総 会	毎年6月
期 末 配 当 金 支 払 株 主 確 定 日	3月31日
中 間 配 当 金 支 払 株 主 確 定 日	9月30日
基 準 日	定時株主総会については、3月31日 その他定款に定めがある場合のほか、 必要があるときはあらかじめ公告 する一定の日
株 主 名 簿 管 理 人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
お 取 扱 窓 口	お取引の証券会社等。特別口座管理 の場合は、特別口座管理機関のお取 扱店。
特別口座管理機関お取扱店	みずほインベスターズ証券および みずほ信託銀行 フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く9:00～17:00)
未 払 配 当 金 の お 支 払	みずほ信託銀行 本店および全国各 支店 みずほ銀行 本店および全国各支店 (みずほインベスターズ証券では取次 のみとなります)
単 元 株 式 数	1,000株
公 告 方 法	日本経済新聞に掲載

Home Page : <http://www.showa-paxxs.co.jp>